

いの町
合併20周年



もっといいまちへ

いの バージョン!

Ino town
Innovation

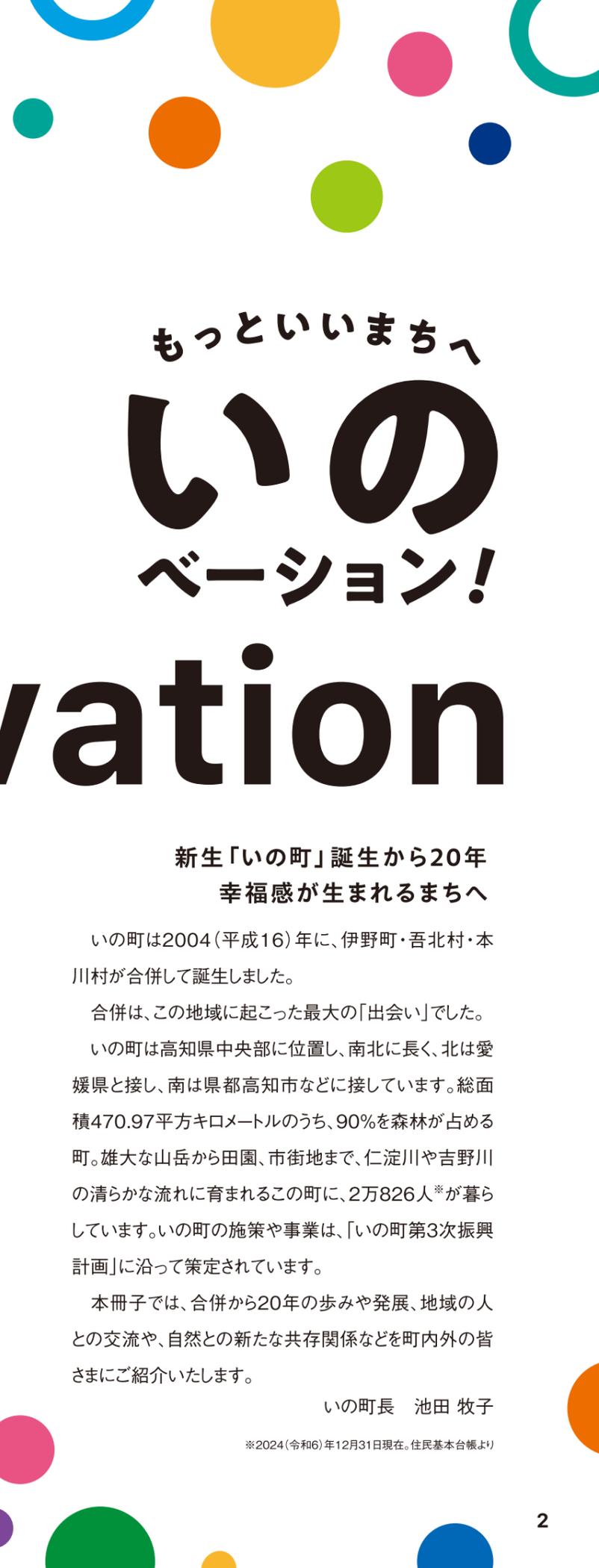
 **いの町勢要覧**
発行/いの町

〒781-2192
高知県吾川郡いの町1700-1
TEL 088-893-1111
FAX 088-892-0353
<http://www.town.ino.kochi.jp/>



発行日/2025(令和7)年3月31日

いの町勢要覧



もっといいまちへ
いの
 ベーション!

Innovation

Contents <いの町合併20周年> 町勢要覧

町長挨拶	2	地域づくり	23
話そう会	4	消防・防災	24
山岳の自然	8	治水・まちづくり	26
川の魅力	10	観光と交流	28
商工業	12	町政	30
歴史	14	合併20周年	
子育て・教育	16	いの町の歩み	32
福祉	18	いの町全体MAP	34
農業と食	20	いの町	
林業	22	イベントカレンダー	35

※記載の情報は2025(令和7)年3月31日現在のものです。



新生「いの町」誕生から20年
 幸福感が生まれるまちへ

いの町は2004(平成16)年に、伊野町・吾北村・本川村が合併して誕生しました。

合併は、この地域に起こった最大の「出会い」でした。いの町は高知県中央部に位置し、南北に長く、北は愛媛県と接し、南は県都高知市などに接しています。総面積470.97平方キロメートルのうち、90%を森林が占める町。雄大な山岳から田園、市街地まで、仁淀川や吉野川の清らかな流れに育まれるこの町に、2万826人*が暮らしています。いの町の施策や事業は、「いの町第3次振興計画」に沿って策定されています。

本冊子では、合併から20年の歩みや発展、地域の人との交流や、自然との新たな共存関係などを町内外の皆さまにご紹介いたします。

いの町長 池田 牧子

※2024(令和6)年12月31日現在。住民基本台帳より





きる経験ではないと気づき、町の自然を大事にしたいという気持ちが大きくなりました。
今村 私も尾崎さんと全く同意見です。自然を五感で感じられるのはいの町の持つ大きな魅力だと思えます。私は千葉県の出身ですが、こんな青く輝く川は流れてないし、そこで気軽に泳ぐこともできたりする。そんな経験ができるのは、この町に暮らす人の特権だと思います。移住者の自分にとって、いの町は挑戦フィールドですが、「ここで暮らしたい」と思った大きな理由は、この豊かな自然があったからこそです。

部分的に未解決な課題はまだ残っていると思います。市街地との連携、地域間の連携の強化は今後の課題だと感じています。
尾崎 町内で少子高齢化が進む中で、これから先、私たちのような若者が地元に着し、頑張っていくかといかない時代になりつつあると思いますが、現

在は、その数もかなり減少し、金融サービスを利用するのに、隣の淀川町まで出向いたりすることもあるのが現状です。
森 伊野町、本川村、吾北村が合併して20年。それぞれの地域における産業や風土も違うなかで、これまでにいろいろな人やモノの繋がりが生まれてきました。一方で、先ほどの金融面の話など、部分的に未解決な課題はまだ残っていると思います。市街地との連携、地域間の連携の強化は今後の課題だと感じています。
尾崎 町内で少子高齢化が進む中で、これから先、私たちのような若者が地元に着し、頑張っていくかといかない時代になりつつあると思いますが、現

状、町内に若い人が興味をもつようなコンテンツが少ないと感じています。若い方がいの町の魅力に気づく前に、高知市や県外に出ていってしまう要因にもなってしまうこともあると思うので、そこだけは「すぐこもつたいない部分」だと感じてしまいます。
中村 私も尾崎さんと同じで、とくに若い女性に向けたお店やイベントが少ないという印象があります。10代、20代の若い女性が興味を持つような「話題性」を意識したモノの見せ方など、今までにないような切り口で何かを発信することも、これからの時代の「町づくり」において、大事な要素

になるのではないかと思います。
——いの町の抱える課題を解決するために、どんなことが必要だと感じていますか？
森 いの町だけでなく、県内の多くの市町村が少子高齢化に対する答えを探していると思います。若い人に来てもらえる安心して子育てができる仕組みづくりや、高齢者に向けた福祉サービスの充実はもちろん大切ですが、それだけでは他の市町村と同じになってしまうと思うんです。何かアピールできるポイント、例えば「町民満足度日本一」のまち」など、インパクトのあるスローガンを掲げて、いの町にしかできない町づくりを挑戦してみるのも面白いのではないかと思います。
和田 本川や吾北などの中山間部地域では、鳥獣対策など今後の課題の一つだと思います。実際、せっかく来てくれた移住者の方が農業に挑戦するなかで、鳥獣被害を受けてしまうという事例もありました。もちろん

いの町は皆さんにとってどんな存在であり、どんなところが好きですか？
中村 いの町は私にとって家族のような存在です。町を歩いたり、暮らしている中で、よく声を掛けてくれたり、面倒をみてくれたりする方も多く、アットホームな雰囲気があるところが好きです。私自身、県外に出たいという気持ちを抱いていた時期もありましたが、地元が一番好きだし、安心できると思い、県内の大学へ進学しました。
森 自然と暮らしが調和したこの町が好きです。仕事で長く県外に出ていたこともありすが、いの町に戻ってくると、自然と体が喜ぶのを感じるんです。自分の体に合っていて、心が安らぐ場所。そんな印象をずっと抱き続けています。
尾崎 自然が身近に息づいているところだと思います。私自身、子どもの頃は無意識に身近な自然で遊んでいましたが、大人になるにつれ、それがどこでも

ん町でも、鳥獣対策の補助金制度などが用意されていますが、移住者の方々がもっと利用しやすくなるよう、これらの制度を整えていく、また発信していく必要もあると感じています。
今村 いの町は広い地域にまたがっていますので、地域で「どんな人が、どんなことに困っているか」を知る機会が少ないのかもしれませんが、実際私も、今日の座談会ではじめて知ったことが沢山あります。お互いに知り合ったり、話し合えたり、そして地域を超えて手伝いにいける。例えばそんなふうにマッチングを補助できる仕組みがあればいいと思いました。



いこの未来を
新生「いの町」誕生から20年
話そう会
合併20周年を迎え、旧3町村出身者と新生いの町と同一年のハタチの若者が今後の20年にどんな展望を描くのか、いの町の未来を語り合いました。



和田 守さん
旧本川村出身

大久保 恵美さん
旧吾北村出身

今村 浩之さん
千葉県出身

尾崎 彩羽さん
いの町出身

森 憲司さん
旧伊野町出身

中村 咲恵さん
いの町出身



―合併前と合併後のいの町で、良くなったこと、また悪くなったと感じることを教えてください。

森 大きく良くなった点は、交通インフラが整備されたことや、電波の状況がよくなったことですね。一方で悪くなりつつある点は、昔はあった集落が現在進行形でなくなっていることです。合併前はそれぞれの地域に集落があつて、町の活力が地域に分散していましたが、この20年間でそのような集落も少なくなり、町の活力が都市集中型になってしまっています。その結果、地域で様々な問題や課題が表面化してきているのを感じています。

和田 デイサービスをはじめ、様々な福祉サービスが町内の隅々にまで充実してきたのは、近年において良くなった点だと感じています。一方で、先ほどの森さんのお話でもあったように、地域の活力が年々低下しているというのは、私も中山間部に住んでいて



日々感じている部分です。とくに担い手不足は深刻化しており、「独居の高齢者の方を見守るのも地域の高齢者」という構図が、郡部ではあたりまえになりつつあります。

大久保 いま話題が上がった「独居者の見守り」は、地域の支え合いの力を維持していく上で非常に重要な部分だと思えます。私は、こういった現状の中でも、情報交換ができる地域の拠点として、集落活動センター、吾北地域でいうと「ふれあいの里柳野」といった場所が、近年にかけて整備されはじめたことがありがたいこ

とだと思っていて、地域にとってもプラスになってくれている要素だと感じています。

―いの町の歴史や伝統、文化について、若い方へ継承していくことについて意見があれば教えてください。

和田 地域の神祭などで踊られる神楽や、地域に伝わる農村歌舞伎も、年々行える人が少なくなり、続けていくのが難しくなってきたという声をよく耳にします。このような地域ならではの習わしを、今後もしっかりさせていくためには、地域で「継承していくための道筋」を立てることも大事だと感じています。若い頃から地域の文化に関わる機会があり、そしてその興味を大人になっても忘れないでいてもらえる。そんな世代間における仕組みづくりが、求められていると思います。

森 文化や伝統のことをもっと掘り下げて、今の若い世代に伝えるよう教えてあげることも大事

なのかもしれません。どんな魅力があり、どれほどの価値と、継承の歴史があるのかももちろん、ここにいる20代のふたりが興味を持つてもらえるような「話題性」などに注目してみるのも、今後は大事になってくるのかもしれないと感じました。

大久保 私は吾北地域で吾北文化祭などのイベントに携わっています。近年は昔みたいに親子・孫3世代で子ども作品を見に来られる方が少なくなっているのを感じています。子どもが描く、作る作品は、地域の身近な文化です。家族で子ども作品を見る機会は、親にとっても子どもにとっても人生においても限られた時期にしかないイベントですので、ぜひ、お子さんの作品を一緒に見てあげてほしいと思います。

―若い世代の方々は、これからのいの町に、どのように関わっていききたいと思っていますか？

中村 現在私は、大学で看護の

ありました。本当はその通りで、移住したての頃はその親切さがとても嬉しかったし、なにより私自身が地域に関われる接点になったことに、今でも感謝しています。



勉強をしています。いつかは、いの町で医療の仕事に就きたいと思っています。都会と地方では医療に求められているスキルも異なると思いますので、地域医療の現状や対策を深く学び、将来いの町の医療を支える人間として、故郷に貢献できたらと思っています。

とだつたのですが、以前、夏にいの町を訪れた際、仁淀川沿いでまるで海のように遊ぶ子どもたちの姿を目にして、この町であれば、子どもたちが安心して、自由に成長できるのではないかと感じました。

―いの町に移住しようと思っただけを教えてください。

今村 移住の理由は主にふたつあって、まずひとつめは、自然環境が非常に豊かであったことですね。私が移住という選択をしたのは、子どもの教育を考えてのこ

―住んでみて想像と違ったという部分がありましたか？

今村 こっちに住んでみて、最も自分の想像の斜め上をいったのは、地域の方がとってもウェルカムな姿勢で私たちに関わってくれたことですね。「今時期はどこどこで蛍が見れるぞ」とか「今度餅つきやるぞよ」とかの時期その時期で、町のことを親切に教えてくれるんです。いの町はアットホームという話も





UFOライン(雄峰ライン) 西日本最高峰、石鎚山系の尾根を走る山岳道路。町道瓶ヶ森線。

山岳の自然

吉野川源流域は、かけがえのない雄大で手つかずの自然王国。

見つけた! いのバージョン!!

UFOラインの出入口には道路上に白線で「UFOライン」と表示されています。また、道中には1kmごとに距離表示されています。UFOラインは全長27kmにわたっているため、事故や災害等のアクシデントが発生した際に、位置の伝達をスムーズにするためです。



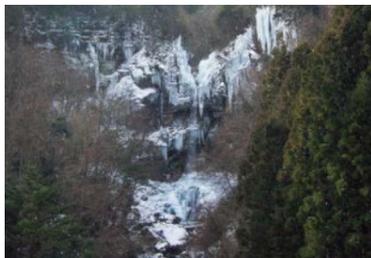
樹氷



吉野川源流の水辺



山荘しらさ



氷室の大瀧



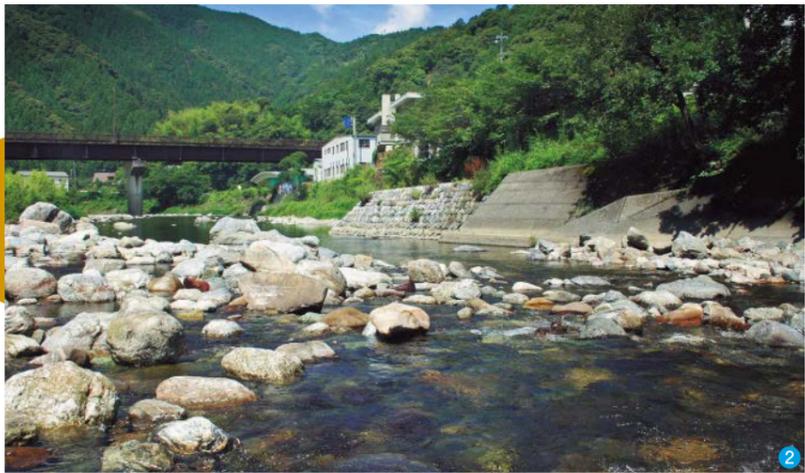
一の谷溪谷



石鎚山系に広がる原生的な天然林(国有林野)



1



2



3

- ① 仁淀川の新緑 緑の山々に沿って流れる仁淀川。かつては舟による物資の運搬が盛んでした。
- ② 弘瀬橋と上八川川 近くにキャンプ場や温泉もあり、夏場には水遊びや釣り人で賑わいます。
- ③ にご淵 水神の化身が棲むという伝説が残る、「仁淀ブルー」を代表する神秘的な青い滝壺。

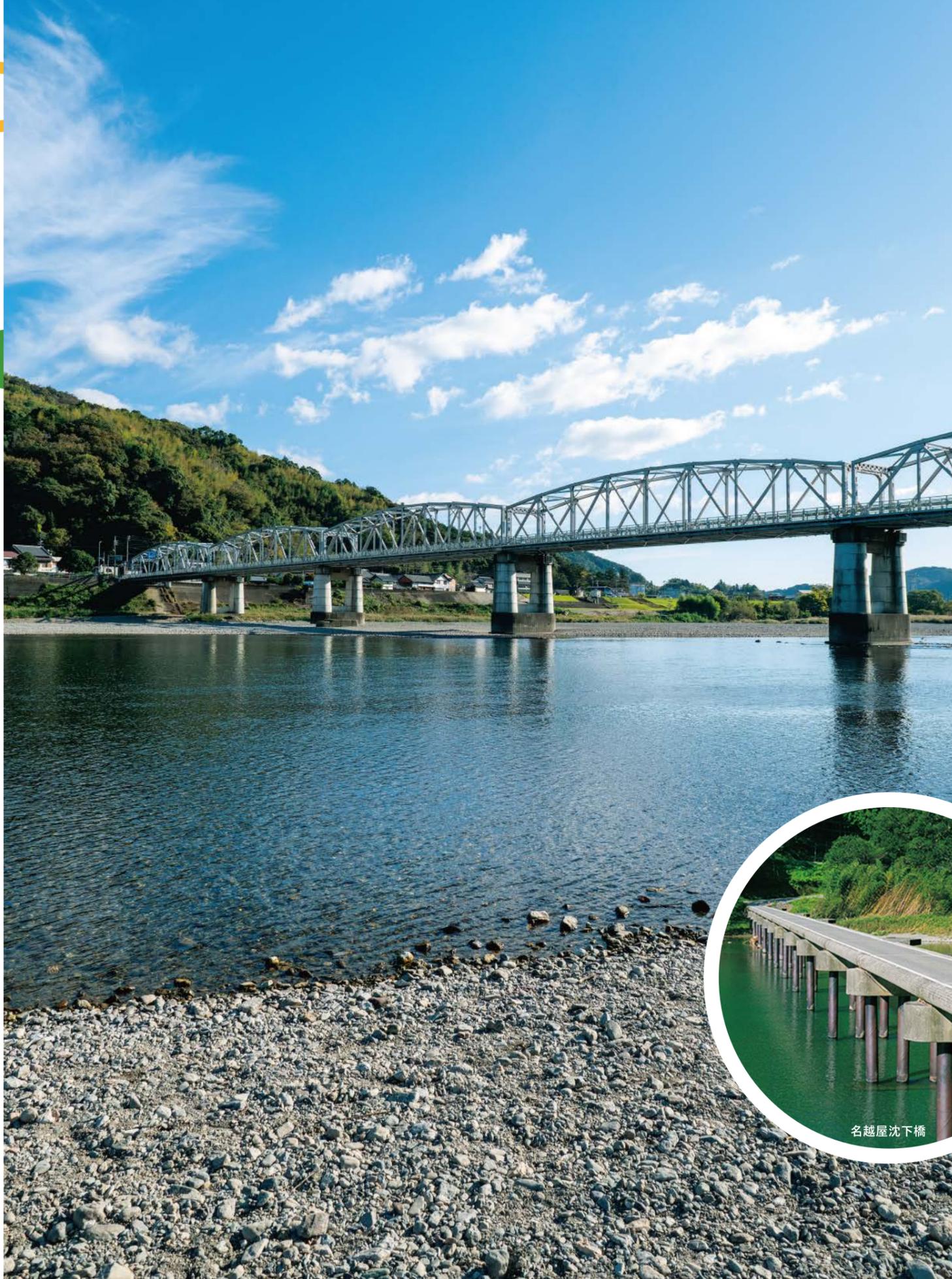
見つけた! いのバージョン!!

四国運輸局と連携し、にご淵周辺の活性化プロジェクトを発足。にご淵への入域協力金の電子決済導入と、周辺観光地で利用できるクーポン発行を行う実証事業を行いました。あわせて、オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業を活用し、遊歩道やトイレなどの整備や、新たな観光コンテンツの造成を行い、周辺地域への周遊を促し、地域経済の活性化を図っています。

これらの取組を活かして、にご淵の魅力を持続しながら、持続可能な観光地としての発展を目指しています。



にご淵周辺活性化プロジェクト
[2024(令和6)年度事業]



川の魅力

仁淀川水系には、
人々の暮らしを支えてきた
水の記憶が宿ります。



名越屋沈下橋



柳野の水車

仁淀川橋と波川公園



和紙早わかり

いの町は、土佐和紙・土佐紙などと呼ばれる紙の生産の中心地です。隣接する土佐市や日高村も紙の産地で、製品にそれぞれ特徴があります。



いの町で作られた和紙製品



いの町で製造した衛生用紙



手漉き和紙を漉く職人(濱田洋直さん)



商工業

仁淀川の恵み、紙が支える産業振興。

紙のまち・いの地域が誇る資源

いの町を代表する産業といえ、製紙業。いの町では、伊野地区を中心に、美術工芸用紙などの土佐和紙から、機械による製紙、ティッシュやトイレットペーパーなどの衛生用紙、マスクや紙おむつの素材となる不織布などの製造工場があります。また、和紙の原料となる楮や三椏などの生産は、吾北地区が中心です。

和紙を巡る学びと交流の拠点が、土佐和紙伝統産業会館「いの町の博物館」、宿泊施設などを併設した体験施設「土佐和紙工芸村」です。また、最近では、いの町商工会や観光協会などが連携して、地域の資源を活用したイベントの開催、商品開発も行っています。

- ① 和紙の原料になる「楮(業)」
- ② いの町の博物館販売コーナー
- ③ いの町の博物館展示室
- ④ 県立紙産業技術センター



土佐和紙工芸村
手漉き和紙を作る体験もできます。



いの町紙の博物館
公認キャラクター「源太さん」
©かわぞえうどう

見つけた

いのバージョン!!



いの町紙の博物館では、11月下旬に夜間開館し「夜の紙博」というイベントが開催されます。土佐和紙と光を融合させた幻想的な癒やしの空間が広がり、来場者を楽しませます。

山々に響く神楽の継承
 本川神楽には約500年の歴史があります。室町時代の1,500年代、伊勢(三重県)から来た人々が伝えたもので、国指定重要無形民俗文化財「土佐の神楽」のひとつです。現代は、17演目が伝わっております。
 本川神楽保存会が継承を担い、子どもたちも交じって練習に励み、11月、12月にかけて本川の各神社で夜神楽として奉納されます。
 また、イベント等に出演し舞が披露されることもあります。

いの大国さまと紙のまち
 「いの大国さま」と親しまれる梶本神社。いの町は仁淀川の恵みである和紙で栄えてきた歴史があり、商売繁盛のご利益が知られています。春と秋の大祭には露店が出て、数万人の参拝客でにぎわいます。秋の大祭に見られる八角形漆塗神輿は国指定重要有形文化財で、鎌倉時代に作られた珍しい形です。春大祭は春告げ祭と呼ばれ、同時期にひな祭りのイベントも開催されます。現在の大国さまは、商店街の活性化や「紙のまちいの」のシンボルなのです。



1 梶本神社 2 秋大祭のおなばれ(梶本神社) 3 八角形漆塗神輿(梶本神社)



本川神楽 山王の舞(やまおうのまい)



吾北清流太鼓一番風
 吾北地区の郷土芸能である清流太鼓から生まれた和太鼓チーム。



本川新郷土館
 本川地区の歴史を詳しく紹介しています。



八代農村歌舞伎
 八代青年団が毎年11月5日に芝居を奉納。神楽殿床には廻り舞台の仕掛けがあり、「八代の舞台」として国指定重要有形民俗文化財に指定されている。



山中家住宅
 18世紀初頭に建築された、茅葺の民家。国指定重要文化財。



八田堰(仁淀川)
 藩政初期の執政・野中兼山が造り、ここから下流域に水路を引き、農地を開拓。現在も農業に使われています。



吉井源太翁生家
 幕末から明治にかけて大活躍した製紙家の生家です。



パーガ森北斜面遺跡の出土品
 高知県を代表する弥生時代中期の遺跡。一帯の湿地には2500年ほど前から縄文人が住んでいて、紀元前3世紀頃、稲作が始まりました。

歴史

見つけた!

いのバージョン!!

山中家住宅は内部も自由に見学いただけます。建物の中では、「よま」という板張りの部屋や、中重という梁の造りなどをご覧ください。

また、囲炉裏で火を起こすことを体験するイベントが行われることもあります。





子育て・教育

一人ひとりを伸ばす
教育・保育へ

0歳から18歳までの子どもたちの心豊かな成長を支援するために、
学びをつなげる取組に力を入れます。

PROJECT 01

学びをつなげる

将来を見通して、今、
教育を変えるために「令和の教育ビジョン」を策定し、4つのプロジェクトに取り組み、一人ひとりを伸ばす教育を目指しています。



PROJECT 02

学びを変える

全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現していきます。

PROJECT 03

誰一人取り残さない

全ての子どもに居場所があつて、一人ひとりに応じた学びが行き届く支援の充実に努めます。



PROJECT 04

地域と共に
はぐくむ

地域の力を活かして、
地域と共に子どもを
育む環境づくりをより
一層推進します。



子育て支援の充実

○地域子育て支援センターの活動を充実させています。
○地域の伝統や文化を継承していくための取組を充実させています。



地域や学校で育む 音楽文化活動

高知追手前高等学校吾北分校の部活動「吾北清流太鼓」は、地域のイベントや全国高等学校総合文化祭にも出演しています。

吾北地区の上東では、ドラム缶を再生したスティールパンという楽器を使用し、「上東パンの学校」が、県内外で活躍しています。2023（令和5）年から、「とんぼのめがねファミリー音楽祭」を実施し、音楽がながれるまちづくりの醸成を図っています。



子ども文化浴事業
子どもたちに芸術・文化に触れてもらうため、町内園・地域子育て支援センター利用者を対象とした人形劇を実施しています。



伊野幼稚園
2015（平成27）年に改築。開放的な廊下は「陽だまり空間」として異年齢の交流の場に。内装に和紙も取り入れています。



中山間地域の学校行事
中山間地域では、一部の行事を保育園、小学校、中学校、高校で連携して行っています。（写真は本川へき地保育園・長沢小学校・本川中学校合同運動会）

見つけた！ いのバージョン!!

いの町の教育ビジョンは「一人ひとりを伸ばす教育・保育へ」の転換を掲げ、全ての子どもの可能性を最大限に引き出すことを目指しています。長年培ってきた道徳教育と自尊心を高める教育を基盤に、「いの町 令和の教育ビジョン」として4つのプロジェクトを推進。これらの取組を通して、郷土愛を持ち、命を大切に、学ぶ意欲にあふれた、夢と希望に満ちた人材育成を目指しています。



訪問看護ステーションでは、訪問看護師・訪問リハビリスタッフが訪問により、病気や障がいがあっても住み慣れた家で、安心して暮らし続けられるよう支援します。

仁淀清流苑は、1990（平成2）年1月、県内で2番目の介護老人保健施設として開所し、入所・



町立仁淀病院
地域の実情に沿った拠点病院・基幹病院としての役割が期待されています。

仁淀病院は、地域の中核病院として、地域医療の充実に努め、地域住民の健康・福祉の増進及び介護の連携や地域包括ケアシステムの推進に取り組んでいます。2024（令和6）年4月には、介護療養型医療施設を介護医療院へ転換しました。また、吾北診療所は、仁淀病院と連携し、吾北地区を中心に医療サービスを提供しています。

通所リハビリテーションなどのサービスを提供しています。

居宅介護支援事業所などでは、介護が必要な状態になっても、在宅生活を続けることができるよう支援をしています。

また、いの町では18歳に到達する日以降最初の3月31日まで、子どもの医療費を助成しています。

地域の皆様から信頼される心のこもったより良い医療、介護サービスを実践します



農福市場

いの町発、多様な連携でつむぐ共生社会 農福・紙福連携の取組

いの町では、「誰もが孤立しない、共に生きる地域社会を大切にしています。その実現に向け、農業と福祉が手を取り合う「農福連携」と、地元を誇りである製紙業と福祉が結びつく「紙福連携」という、二つの取組を進めています。これらの活動は、障がいのある人や、日々の暮らしの中で困難を感じている人が、農業や製紙業分野で力を発揮し、自分らしい生きがいを見つけ、社会と繋がりを深めていくことを後押ししています。

この活動を支



紙福連携（土佐和紙）



農福連携（ぶどう）

住民を主人公に、充実していくいの町の取組が、誇り。

世代を超えて支え合う、共生の輪

「いの町あったかふれあいセンター」や「吾北あったかふれあいセンター」は、福祉サービスの情報発信や買い物支援などを行い、子どもから高齢者まで誰もが気軽に集える拠点を目指し活動しています。

県内で最初に始まった「ミニデイサービス」は、「いの町安心のまちづくり特別助成事業」を基に、伊野地区・吾北地区の約50カ所で行われ、手作りの食事や保健師による健康相談などを行っています。また、いの町独自の健康体操、「るるん若ガエル体操」は、町内の公民館など50カ所以上で行われ、住民の健康増進に大きく貢献しています。

一方、子育て世代と、援助をしたい会員を結ぶ「いのファミリー・サポート・センターはつびい」では、2018（平成30）年の開設以来、会員数が着実に増加し、子育て支援のネットワークが拡大しています。保育園や小学校の送迎、休日のお預かりなど様々な困りごとに対して、地域住民が互いを助け合うことで、子育て世代を支援しています。

エリア別実施力所MAP

本川エリア
2カ所

吾北エリア
17カ所 10カ所

伊野エリア
33カ所 4カ所

- ミニデイサービス
- るるん若ガエル体操

見つけた! いのバージョン!!

「農福市場」では、障がいのある方などが農作業を通して育てた新鮮な野菜や、加工品などが販売されています。単なる販売所ではなく、地域の方と障がいのある方々との交流の場としての役割も担っており、互いを理解し、支え合う地域共生社会の実現に貢献しています。





吾北の農事組合法人 上東は組合員34名で、2019（平成31）年に設立しました。地域の農業を維持する核組織として、農作業受託や農地を維持するさまざまな活動を助け合っており進めています。農地を守るほか、高齢化や人口減少などの課題解決のため、「上東を愛する会」の活動との相乗効果で、地域のファンを増やす努力を続けています。

集落営農で支え合い



日当たりのよい山間部で栽培される新高梨



初夏の風物詩「キビ街道」のゆでトウモロコシ



土壌の良さが重要なショウガ



吾北の山間部で栽培されるブランド山茶



上東で生産される香り豊かなお米



香り高い仁淀川のアユ



吉野川源流でのアメゴ養殖（白猪谷）



キジ鍋

この自然環境とともに
生きる農業、畜・水産業。

- ① ショウガの収穫に動しむ農業者
- ② サツマイモを収穫した若手農業者
- ③ 山間部の斜面を利用し栽培されるユズ

近年は農業への異業種参入も特色です。吾北地区ではお茶の無農薬有機栽培やユズ栽培が行われているほか、本川地区では従来からあるキジ肉の生産増と商品化を進めているところです。農業は担い手不足や経営の不安定、輸人品との競争、耕作放棄地の増加など課題は多いですが、次代へつないでいく取組を続けています。

農業と食

高付加価値化し、
次代へと受け継いで

伊野地区では、ショウガ、キュウリ、白芽芋、サツマイモ、トウモロコシ、マンゴー、ナシ、ブドウなどが生産されており、ショウガは6次産業化も進んでいます。吾北地区では酒米「吟の夢」や食用米、ニラ、ユズなどが栽培されています。

見つけた！
いのバージョン！！

夏の風物詩「キビ街道」。約30年ぶりに若手農家の水田光彦さんが新規参入し、新たな活気を生み出しています。若者たちの参入により、地元の伝統を守ろうとする動きが活発化しています。水田さんは、甘みが強く風味豊かな「ドルチェドリーム」という品種を栽培し、その美味しさが評判を呼んでいます。



2016(平成28)年には、本川の越裏門・寺川地区に「越裏門・寺川地区村おこし協議会」による集落活動センターが開設されました。集落支援員を配置して、鳥獣被害対策、観光交流事業などを行っています。収益事業の柱は「氷室原木まいたけ」を中心にしたキノコ栽培。過疎高齢化の進む地域で、特性を生かして集落の活性化を目指します。



集落活動センター「氷室の里」

集落活動センター「氷室の里」



越裏門・寺川地区村おこし協議会による、収穫体験のひとつ



①高性能林業機械による森林整備 ②森林環境譲与税を活用し整備した木製遊具 ③放置竹林の整備(整備後)

地域づくり

地域の課題を解決する多様な活動が、新たな交流と経済力に。

森林率は90%、恵まれた資源を活用しながら、地域再生へ。

林業



①集落活動センター柳野 ②直販所 ③太陽光発電 ④柳野定食

集落活動センター「柳野」
いの町で最初の集落活動センターは、2014(平成26)年、「明るい柳野を創る会」が運営主体となって、吾北地区の小川柳野に開設されました。拠点となる直販所及び食堂は、地域内外の人との交流と憩いの場と

なっています。また、イタドリの栽培により、耕作放棄地の有効活用と二次加工品の販売に取り組んでいます。その他、交流イベントや配食サービスなども行っており、生活支援や安心安全サポートなどの運営費には、太陽光発電施設の売電収入を活用しています。

森林、林業の再生に向けて
2019(令和元)年から森林整備促進の財源として市町村に「森林環境譲与税」の譲与が始まりました。
いの町には、民有林人工林が約2万ヘクタールあり、これら森林を適切に整備していくためには従来からのきめ細かな支援に加え「森林環境譲与税」を活用し、森林所有者に向けた森林管理の意向調査や、里山地域における放置竹林等の整備、木材利用の普及促進などの取組を実施しています。
また、近年では、いの町内の森林におけるニホンジカの被害(食害・剥皮)が増加していることから、再造林と併せて獣害防止

連携して進める森林整備
いの町の町有林は約1,500ヘクタールで、広大な面積を有しています。その多くが奥地に所在していることから、水源涵養機能や土砂流出防止機能を重点的に高める必要があり、計画的な管理経営に努めています。
連携して進める森林整備
これらの町有林は約1,500ヘクタールで、広大な面積を有しています。その多くが奥地に所在していることから、水源涵養機能や土砂流出防止機能を重点的に高める必要があり、計画的な管理経営に努めています。



獣害防止ネットの点検作業



いの町林政連絡調整円卓会議

見つけた! いのバージョン!!

柳野集落センターの加工場をリニューアルし、イタドリの塩漬やピクルスの製造・販売に取り組んでいます。また、高知大学地域協働学部の学生と連携し、清掃活動や内装を昭和レトロな雰囲気改装するなど、若い世代との連携も積極的に行っています。



2023(令和5)年にリニューアルした加工場の様子

見つけた! いのバージョン!!

【林業事業者による試験地造成】
いの町では、林業事業者の先進的な施業技術の開発に向けた取組に支援を実施しています。2020(令和2)年には、スギ・ヒノキに比べ初期成長が早い「コウヨウザン」の植栽試験を支援しました。



町有林の間伐(環境先進企業との連携)

その一部の整備に当たっては、現在まで9社の環境先進企業と連携を図っています。
また、2013(平成25)年には、国立研究開発法人森林研究・整備機構と、県内の民有林では初めて、初期成長が特に優れたスギの植栽試験地を設定し、町有林も含めると現在6カ所の試験地があります。

消防の体制

常備消防機関である「仁淀消防組合」と非常備消防機関である「いの町消防団」で構成されています。

非常備消防である消防団は、「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神に基づき活動しています。

平時は資機材・水利点検、水難救助訓練、消火訓練、自主防災組織との合同訓練などに取り組んでいます。



ヘリポート（中追）
ドクターヘリが離着陸するヘリポートを整備。

ヘリポートを整備

災害時における山間部の孤立対策や、傷病者の緊急搬送に対応するため、吾北地区に4カ所、本川地区に4カ所のヘリポートを整備されています。高知医療センターへの飛行時間は、吾北地区からは約10分、本川地区からは約13分となっています。



仁淀消防組合吾北分署改築
2017（平成29）年改築。建物面積の拡張で出動体制を強化、トレーニングスペースで職員の体力作りも。



仁淀消防組合本署の改築
2018（平成30）年、仁淀消防組合消防本部と消防署の庁舎を改築しました。



消防団活動
消防署と協力し、消火・防災活動を行います。



仁淀川洪水想定浸水表示板
仁淀川の氾濫に備え、最大想定の上水水深表示板を設置し啓発。



いの警察庁舎
2014（平成26）年、旧土佐署が本庁舎となり、いの署が分庁舎の体制となりました。



地域と連携した防災フェスの様子



①② 第26回全国消防操法大会
いの町消防団は全国消防操法大会において、3度の優勝、3度の準優勝という輝かしい結果を残しています。
③ 初午行事

消防・防災

地域の力が集まって、災害に強い町へ。水害や土砂崩れ、南海トラフ地震にも備えを。

自主防災組織

近い将来起こるとされる南海トラフ地震の最大規模想定は、概ね1,000年に1度の発生確率で、M9.0と非常に大きなものとなっています。町内では震度6弱から7の強い揺れが予測され、市街地では広範囲で建物の倒壊や火災の発生、山間部では斜面崩壊による道路の寸断とそれに伴う集落の孤立化が心配されています。

このため各地で自主防災組織が設立され、災害時には消防、警察と協力して地域を守る活動を行っています。

いの町は自主防災組織の活動活性化や、住宅の耐震化に対する補助制度を活用し、災害への備えを行っています。



自主防災組織
町内会や自治会を中心に地域住民も熱心な防災活動を行っています。

見つけた！いのバージョン！！

地域と連携した「いの町消防・防災フェス」を実施し、住民の防災意識向上と災害への備えを推進しています。避難所運営訓練などの実践的な訓練に加え、起震車による地震体験や消防団車両の乗車体験などを通して、楽しみながら防災を学べます。自衛隊カレーの炊き出し訓練も行われました。

いの町では、防災情報を分かりやすく伝えるため、いの町防災行政アプリや町公式ホームページで、防災4コマまんがの配信をしています。





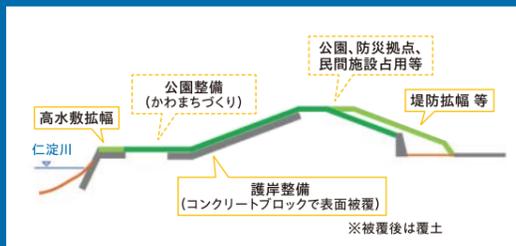
官と民が連携した、まちなか再生

官民連携による「まちなか再生」

いの町では、普段使用頻度の少ない公有地を活用して、民間の方が中心となり、まちを盛りあげようと「マルシェ」や各種イベントの開催など、社会実験として賑わい創出が進んでいます。社会実験を繰り返しながら、使用頻度が少ない公有地を、憩いの場として、居心地良く歩きたくなるまちなかや滞留したくなる空間づくりとして、整備を進めることにより、さらなる地域経済の向上が期待できます。

見つけた！いのバージョン！！

中心市街地は、過去の洪水による氾濫堆積物により形成された微高地（自然堤防）に集落と街道が発達してきました。流域治水では、計画を超えてくる洪水が発生することを想定していることから、安全に逃げるための時間を確保するうえでも必要となる、堤防の破堤まで時間を稼ぐ、新しい取組として堤防の強靭化を推進していきます。



堤防の強靭化イメージ



水辺で乾杯



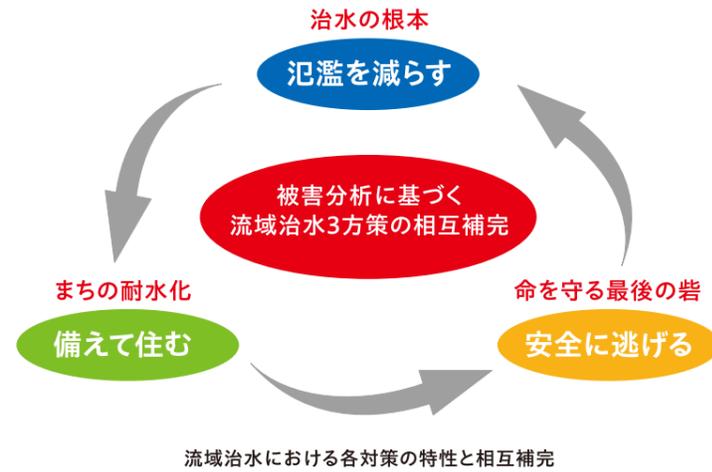
高知仁淀ブルーライド



いのマルシェ

どんな洪水が発生しても「犠牲者ゼロ」となる状態を2040年頃までに目指す。

治水・まちづくり



気候変動による水害の頻発化・激甚化に対応するために

日本各地で毎年のように計画を超える洪水によって、犠牲者が後を絶たない状況となっております。

従来の治水は、河川管理者だけが対策を実施しておりました。

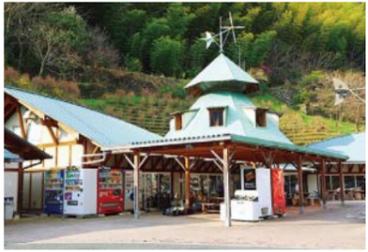
2021（令和3）年度より、流域内のあらゆる関係者の協力による流域治水に全力で取り組んでいます。



伊野地区中心市街地から望む仁淀川



森林軌道跡を巡るハイキング
豊富な森林資源を生かした体験観光。「いの町の森林軌道跡」として林業遺産に認定・登録。



道の駅・633美の里
季節の野菜や手作りスイーツを探しに行きたい楽しい空間。



吾北むささび温泉
鉄分を含んだあかね色の湯です。温泉利用者が無料で使えるトレーニングルームも併設されています。



道の駅・木の香
山岳エリアにたたずむ、露天風呂が人気の温泉とお宿。



山荘しらす
宿泊ロジやカフェ、ショップを併設し、全国各地から山愛好家が立ち寄ります。



土佐和紙芸村
レストラン、宿泊施設、直販所、ギャラリーを備え、体験観光（紙漉き、カヌーなど）も楽しめる道の駅。



仁淀川 紙のこいのぼり 清流の中をゆらゆら泳ぐ紙のこいのぼり、ゴールデンウィークの人気イベント。



いの町紙の博物館
土佐和紙の歴史や製造工程を学ぶことができ、紙漉き体験もできる施設です。館内販売コーナーでは和紙製品を豊富に取り揃えています。



夜の紙博
いの町紙の博物館で11月下旬ごろ開催される、和紙と灯りが織りなす人気イベント。

いの生姜焼き街道

町特産のショウガをPRするため、いの町商業振興会が主催しています。



四季折々の清流観光と山岳観光をつないで。人の魅力に乗せて、発信します。

観光と交流

雄大な石鎚山系の自然
県内外へ発信

2017（平成29）年、いの町・大川村・愛媛県西条市・久万高原町の4市町村が「石鎚山系連携協議会」を立ち上げました。山岳観光にはサイクリングも積極的に活用します。県外からの町を訪れる人の7割が愛媛県からで、しまなみ海道ともつながる広域観光圏が期待されます。

2021（令和3）年にリニューアルオープンした「山荘しらす」は、山岳観光の拠点として、県内外から多くの方が訪れています。



UFOラインアタック
楽しんで走るサイクリングイベント。石鎚山系絶景コースで「UFOライン」と名物のキジ料理を堪能。



仁淀川はアクティビティの舞台

大きな自然の魅力を掘り起こして連携

いの町が参加する「仁淀ブルー観光協議会」は、6市町村で県外への広域観光をPRし、年間3,000人規模でのツアー誘致活動などに連携して取り組んでいます。写真家の高橋宣之さんが名付けた「仁淀ブルー」で知名度が急上昇した仁淀川と吉野川の源流域。いの町は、清流や山岳という貴重な自然資源を、人や文化の魅力とともに発信しています。

海外からのインバウンド観光客受け入れでは、アウトドアメニューと共に紙漉き体験など伝統文化も織り込んだ体験メニューを充実させます。

見つけた！いのベーション！！

2024（令和6）年10月から運行が始まった「サイクルバス」は、路線バスとレンタサイクルを合わせた新しい移動手段です。JR伊野駅から自転車ごとバスに乗車できます。「長沢」「柳野」「土居」「柳瀬」方面のバスに乗り目的地で下車後、自転車で観光などを楽しむことができます。



UFOライン（町道瓶ヶ森線・町道瓶ヶ森西線）
初心者にも登りやすい瓶ヶ森のほか、数々の魅力的な山が訪れる人を待っています。



名越屋沈下橋
高知県サイクリングロードにも指定の景観スポット。いの町観光協会のレンタサイクルあり。



体験の国ほのほの王国
お子様を中心に、働く車や職業体験、地元のおいしい食べ物が楽しめるイベントです。



仁淀川 神楽と鮎と酒に酔う
夕暮れの仁淀川沿いで、流域の神楽をはじめとする文化、酒、食事を楽しむことのできるイベントです。

いの町第3次振興計画

いの町では、町の様々な行政活動の基本となる最上位計画「いの町第3次振興計画」を2025(令和7)年に策定しました。地球温暖化対策や中山間地域対策、南海トラフ地震への防災対策、感染症対策などさらなる安全・安心が強く求められるなど、いの町を取り巻く情勢は常に変化しています。

いの町は、今後も継続して人口の自然減の縮小や社会増に向けて、さらなる地方創生の取組を進めていきます。



町政



いの町役場本庁舎 2015(平成27)年完成

新たな旅立ち、いの町。

いの町合併20周年

伊野町・吾北村・本川村が合併し誕生したいの町は、20周年を迎え、記念式典を2024(令和6)年10月1日に執行了いました。式典では、これまでの20年の取組を紹介し、20歳の若者による未来への想いを込めたスピーチや、合併20周年記念ソングのお披露目のほか、清流太鼓、本川神楽、よさこい演舞など、地域の伝統芸能が華やかに披露されました。

また、いの混声合唱団による美しい歌声が式典会場を包み込み、来場者全員が一体となつて、いの町の未来を盛大にお祝いしました。

この節目を機に、21年目をスタートしたいの町のさらなる発展を誓いました。

見つけた!

いのベーション!!

町の合併20周年を記念し、記念の年度を盛り上げていただける町民団体に対し、事業実施補助金を交付しました。4団体が記念事業を実施し、よさこい演舞活動や音楽祭など、たくさんの方がイベントに来場し、町の20周年を盛大にお祝いました。



いのホールでの音楽祭の様子
2023(令和5)年「音楽のまちづくり事業」開始



天神保育園新園舎
2022(令和4)年完成



吾北総合支所庁舎
2018(平成30)年耐震改修



本川総合支所庁舎
2018(平成30)年耐震改修



伊野給食センター
2019(令和元)年完成



⑥ 仁淀川にこここ館



⑦ 山荘しらさ



⑧ 山中家住宅



⑨ 本川神楽伝承500周年記念祭



⑩ 神宮紙抄造の様子

2004(平成16)年
伊野町・吾北村・本川村が合併し、「いの町」誕生。県内初の平成合併初代町長として塩田始氏が就任

2005(平成17)年
吾北むさび温泉オープン
本川戸中地区に町内初のヘリポート完成
本川村森林組合、高知中央森林組合と合併

2006(平成18)年
いの町観光協会設立
「協働の森づくり事業」(県内第1号、三井物産と協定締結)

2007(平成19)年
新宇治川放水路完成
伊野南農免道路のパーガ森トンネル開通

2008(平成20)年
うばが森養甫尼記念碑建立
本川きじ生産組合再結成、活動再開

2010(平成22)年
秋篠宮同妃両殿下、紙の博物館御視察
町役場新庁舎基本設計案完成

2011(平成23)年
仁淀病院完成
仁淀川が水質日本一に
パーガ森北斜面遺跡から2,000年前の炭化米出土
4小学校(清水第二・上八川・小川・下八川)が統合、吾北小学校開校
4幼稚園(清水・上八川・小川・下八川)が統合、吾北幼稚園開園

2012(平成24)年
高知西バイパス天神IC-鎌田IC区間開通
日本スポーツマスターズ2012
ブレールなど開催
神谷小・中、一貫校として開校

2013(平成25)年
ねんりんピックよさこい高知2013のソフトブレールボール交流大会開催
いの町議会議員定数を20に削減
国道439号町内改良区間全線開通

2014(平成26)年
いの町町制施行10周年
いの警察署が土佐警察署の分庁舎となる
台風11、12号により災害救助法適用
「いの町の森林軌道跡」が林業遺産に認定

2015(平成27)年
いの町役場新本庁舎完成
「いの町史」刊行
いの町紙の博物館開館30周年

2016(平成28)年
町長選、池田牧子氏当選
「いの町 菊池学園」始動
高知西バイパス枝川IC-天神IC区間開通
「空き家バンク」登録制度開始

2017(平成29)年
「高知国際版画トリエンナーレ展」第10回
伊野小学校舎新築
いの町議会議員定数を18に削減

2018(平成30)年
吾北総合支所耐震改修
仁淀消防組合消防署改築

2019(平成31・令和元年)
いの町町制施行15周年
枝川保育園・幼稚園が統合
吾北保育園・幼稚園が統合
認定こども園えだがわが開園
認定こども園ほくが開園

2020(令和2)年
仁淀川にこここ館リニューアルオープン
八田保育園新園舎完成

2021(令和3)年
高知西バイパス全線開通(鎌田IC-波川山荘しらさリニールオープン)
防災行政アプリ配信開始
UFOライン商標登録

2022(令和4)年
ゼロカーボンシティ宣言
天神保育園新園舎完成
中山間地域に超高速アロードバンド整備
国重要文化財「山中家住宅」修復完了

2023(令和5)年
本川神楽伝承500周年

2024(令和6)年
いの町町制施行20周年
パートナーシップ宣言制度
宇治川総合内水対策事業完了
「神宮紙」誕生100周年



変わる時代 変わらぬ想い

いの町は2024(令和6)年、合併20周年を迎えました。前回の要覧から5年の間に、コロナ禍や自然災害に加え、デジタル化や持続可能な社会への要請等、社会情勢は大きく変化しました。これらを踏まえ、デジタル技術を活用した行政サービス向上や地域活性化、清流・森林資源の保全活用、地域共生社会の実現、災害に強いまちづくりを推進し、「豊かな自然と心に出会えるまち いの」を継承していきます。



⑤ いの町史



④ いの町役場新本庁舎



③ 高知西バイパス



② 協働の森づくり事業



① 吾北むさび温泉



体験の国ほのほの王国



四国のでっぺん酸欠マラソン大会



いの町民祭
仁淀川まつり

いの町 イベント カレンダー

11月	11月	10月	9月	8月	7月	5月	4月	3月	2月	1月
11月23日 11月23日 11月中旬	11月5日	10月初旬	9月下旬	8月15日 8月第1日曜日	8月上旬	5月3日 5月3日 5月5日	4月中旬 4月上旬 4月中旬頃	3月上旬 旧暦1月22日の 前の日曜日	2月	1月
● 本川神楽奉納 ● 夜の紙博	● 八代農村歌舞伎 ● 体験の国ほのほの王国 ● 大国祭(秋大祭) ● kami祭	● 四国のでっぺん酸欠マラソン大会	● 神楽と鮎と酒に酔う	● 吾北地区ふるさとまつり花火大会 ● 吉野川源流本川まつり	● いの町民祭仁淀川まつり	● 本川山菜まつり ● 仁淀川紙のこいのぼり ● 本川あめご釣り大会	● 仁淀川カヌー開き ● UFOラインアタック	● ひなマルシエ ● 大国祭(春大祭)		



町の木
ミツマタ(三椏)
古い時代に中国から渡来した落葉低木。4~5月、黄色あるいは赤の小さい花が集まって咲き、後から葉が出る。名の由来は、枝が三叉になることから、土佐和紙に欠かせない原料の一種。



町章
重なる輪は、ひらがなの「い」を圖案化したもので、調和を保つ意味を表現しています。



町の鳥
ヤマガラ(山雀)
低山の多様な樹林に住む留鳥。シイやカシの常緑広葉樹林を好み、西南日本に多い。人家周辺でも見られる。成鳥で14cm前後、頭は黒色と薄茶色、背と腹は茶褐色、肩から翼にかけて濃い青灰色。



町の花
シヤクナゲ(石楠花)
ヒマラヤ原産の高地性花木で、標高600メートル以上の半日陰の腐葉土や断崖に自生する常緑低木。4月下旬に淡紅色の花を咲かせる。通称UFO(雄峰)ラインこと、町道瓶ヶ森線も見どころ。



いの町 全体MAP

いの町は、高知県のほぼ真ん中にある、広いまち。平野部から山岳部まで、変化に富んだ自然の宝庫。伊野エリア・吾北エリア・本川エリアからなるいの町の総面積は、470.97平方キロメートル。高知市と隣接する伊野エリアでは高知自動車道や国道33号などが走り、吾北エリア、本川エリアを走る国道194号と国道439号は町の中央で交差しています。

